

日本家庭教育学会 令和4年度第37回大会のご案内

◆大会テーマ

家庭教育と健康

—コロナ禍の経験から何を学び、どう活かしていくべきか—

◆主旨

新型コロナ感染症の拡大からすでに約2年半が過ぎました。世界各国に目をむけると、いまだ感染自体は続いています。終息を見越して日常を取り戻す方向へ舵を切っています。以前の日常を取り戻し、経済活動、社会活動の停滞を脱していかなければ、社会全体が沈み込んでいくという危機意識もあるといえるでしょう。

多くの犠牲をはらったこのコロナ禍から早く脱して、日常生活の安心を取り戻し、コロナのことを早く忘れてしまいたいと思う人もいるかも知れません。しかし、今回の災禍が続いている現時点で、このコロナ禍が私たちの社会に突き付けたものが何なのかを問うことは重要です。

コロナ禍は様々な局面で私たちの社会のなかにある問題を浮き彫りにしました。たとえば、パンデミックへの対応の脆弱さ、格差の問題、経済的弱者の自殺の増加、人と人のつながりを断つ孤立化などがあげられます。コロナ禍によって可視化されたこれらの問題は今後の大きな課題だといえます。

一方で、コロナ禍によって人々の衛生への意識は大きく高まったともいえるでしょう。コロナ禍は社会全体に「健康」についての関心を増加させたといえます。コロナ禍が顕在化させたさまざまな社会的問題は、一見、個々人や家庭における健康の問題とは離れた問題のように思えます。しかし、上にあげた問題群は個人や家庭のなかにダイレクトに関係しています。今回の大会では、この「健康」の問題を家庭教育との関連で専門家を招いて考えていきたいと思えます。

◆日時：令和4年8月20日（土）09：45～16：00

◆場所：貞静学園短期大学

◆参加費（資料代）：1000円

◆プログラム：

09：15 受付開始

09：45 開会式

10：00 個人研究発表

12：00 昼食・休憩（*常任理事会）

13：30 講演・ディスカッション

「家庭教育と健康—コロナ禍の経験から何を学び、どう活かしていくべきか—」

講師：藤原武男氏（東京医科歯科大学教授）

ディスカッション（進行：佐藤貢悦理事長・IPU 環太平洋大学経済経営学部教授・筑波大学名誉教授）

16：00 閉会式・会員総会

※ 今大会は、過去二年、コロナ禍によって開催できなかった対面形式での実施を予定しております。しかし社会の感染症対策の状況によっては大幅な変更があり得ることをご了承ください。もし行政から「行動制限」等が出された場合には、速やかに学会ホームページにてお知らせいたします。